

医学部で成人間肝移植

医学部第二外科(土肥雪彦教授)の移植チームは、七月十六日、広島市に住む重症の肝不全の女性(49)に姉(53)の肝臓の一部を移植する成人間の生体部分肝移植手術を実施した。

同グループは五年前に国内初の成人間生体部分肝移植を行っており、二例目。

手術は午前九時四十分始まり、十三時間かかって終了した。まず姉の肝臓の左側部分七百十六cc(全体の三五%)を切り離し、肝不全の患者の肝臓を摘出したあとにはめこんだ。移植を受けた患者の出血は千七百cc程度で、五年前の手術のほぼ八分の一で済んだ。

欧米では肝移植は広く普及しており、例えばアメリカでは年間三九〇〇例、ピッツバーグ大学だけでも年間の肝移植数は約五百例にも達している。それに対して、わが国の成人間の生体肝移植は五月末現在で二十八例で、信州大十二例、京大六例、東京女子大三例、兵庫医大一例などとなっている。

生体肝移植では、健全な臓器提供者にメスを加えるという潜在的リスクが排除できないため、脳死判定が社会的に認知される努力を続け、臓器移植法案の成立をまって脳死肝移植を推進するべきという意見もあるが、わが国では九二年一月の脳死臨調後も脳死に伴う倫理問題に完全なコンセンサスが得られていない。

土肥教授は今後の方向性について「重症だったが、お姉さんのご厚意により成人生体部分肝移植を行うことができ、経過は順調である。日本では、外国で脳死肝移植を受けない限り、生体部分肝移植しか選択肢はない。高度先端医療の適用申請を行い、しばらくは生体部分肝移植で努力し、日本の脳死肝移植実現のため患者さんたちとともに働きかける所存である」と語っている。

広島大学支援財団(財団法人 広島大学後援会)の構想固まる

平成八年七月十六日開催の臨時部局長連絡会

議で、後援会設立趣意書(案)、主な事業内容(案)、発起人名簿(案)、事業計画書(案)、寄付行為(案)が報告された。この法人は現広島工業会内に事業所を置き、平成九年度から具体的な支援活動を行う予定。

東広島キャンパスの夜間交通規制

不審車両の構内への進入防止策として、去る八月一日(木)から東広島キャンパスの出入り口に車止めを設置し、交通規制を行っている。実施時間は二十時から翌朝六時まで(ただし土曜日、日曜日、祝祭日は終日)。したがって規制時間内の出入り構は中央口(法学部・経済学部の北側)の一角のみとなる。ただし事務局前道路(現在工事中)が通行可能になるまでの間は、東口(工学部東側)も利用できる。

学長・部局長も教養的教育を担当

平成九年度から実施予定の教養的教育改革の一環として、原田学長以下各部局長が総合科目を担当し、それぞれの学問観や学部理念などについて講義することになった。

わが大学を代表する顔による授業なので、多くの学生の受講が予想されるが、単位の認定など細部の検討が必要と思われる。

全学的な事務機構の見直し

これまで広島大学の事務機構は、部局レベルで一部改組はされてきたが、全学的な視点からの見直しは一度も行われてこなかった。統合移転の完了した今、内外の山積した課題を解決するためには、全学の英知を集結して早急に検討に入る必要がある旨内藤事務局長より説明があり、「事務機構改革検討委員会」を設置することが了承された。

生物生産学部

四川農業大学訪問団

七月八日から十四日にかけて、偉副校長、馬外事弁公室主任、王科学研究処副処長、林四川省教育交流協会理事からなるはじめての訪問団を受け入れた。

四川農業大学との交流の経緯については、すでにフォーラム(二十七期二号)で紹介したが、交流協定の調印を郵送で済ませており、今回、正式の訪問団を迎え本格的交流の一步となった。学部長をはじめ学部教職員の協力を得て、暖かく歓迎することができた。

交流については、留学生の受け入れだけではなく、双方向型の教育交流の実現、研究活動の把握、特に中国側研究者の研究課題リストの整備など、交流の促進に必要な情報の不備などを認識しあうことができた。

学長との懇談も実現し、積極的な交流を望む広島大学の意図を伝えることができた。受入れ体制の整っていない当学部にとって、資金の調達には学部長以下関係教官からの寄付に頼らざるを得なかった。ちょうど支援財団への募金と重なり、多くの方々にお助けを掛けてしまっただが、一日も早く財団からの援助などが得られ、未来につながるゆとりのある楽しい交流のできる日が待たれる。(生物生産学部・山本慎紀)



いじめ問題に悩む教師や保護者支援
— 学校教育学部で相談事業を開始 —

深刻化するいじめや不登校などさまざまな問題を抱え、ストレスに悩む教師や保護者が急増している。

学校教育学部では、附属教育実践研究指導センターを改組・転換して、教育実践総合センターを新たに設置し、六月からいじめや不登校などの解決のために教師や保護者などを対象とした相談事業を開始した。相談は、電話、ファックス、電子メールなどによって行っており、七月三十一日までの間に、約八十件の相談が寄せられた。主には、教師からの相談であるが、同センターの高橋超教授は、「内容は、多種多様であるが、いじめの相談が最も多い。スタッフの関係で相談日時を限定しているが、こうした相談によっていじめ問題の解決に幾らかでも貢献できれば」と話している。

開始して間もないが、その成果を期待したいものである。

附属図書館ホームページを開設

八月十二日から、附属図書館の公式ホームページがインターネット上に開設されています。内容は、「図書館からのお知らせ」「智恵袋(図書館を利用するためのヒント)」「購入雑誌受付状況」「新着図書情報」「図書館利用案内」「図書館報」「図書館要覧」「OPAC」「MEDLINE」等です。

ぜひ、ご利用ください。

URL <http://www.lib.hiroshima-u.ac.jp>

お詫び

前号(二十八期二号)のニュースダイジェストの記事のうち、本多記念研究奨励賞受賞中、工学部松本一弘助手とあるのは、松本一弘助手の誤りでした。お詫びして訂正します。